令和８年４月１日

令和８年度　『光寿会事業計画』

① お年寄りの声に対して、より効果的に対応します。(継続)

お年寄りの声を大切にする事が法人目的に繋がる。『上司不在で決められない』ではなく、お年寄りにとって良い事であれば、その場にいる職員で判断し実行できる事を実践したい。事後報告は必須とし、見直しも忘れずに！

【利用者本意の目的を尊び、素早く実行するための効果】

② 経営感覚を持って地域ニーズに応えます。(継続・修正)

光寿苑短期入居事業は引続き受入れ体制を整え、経営安定化を図る。入居空きベッドも最小限に抑え、災害や感染症発生時の迅速な復旧を目指す。地域密着型サービスひなたぼっこは通い利用者増により、経営の独立を図る。

【お財布事情も把握しながら、みんなで地域を支える効果】

③ お年寄りの意思決定・推定支援に取り組みます。(継続)

お年寄りご本人による『受容と納得をした上での意思決定』が施されているかどうか。未だ、最期の時についての意思決定は不十分な現状。ご本人とご家族の声に耳を寄せながら、意思の決定・推定の支援を進めていく。

【今の暮らしから最期の時まで見通したケアの構築効果】

④ お年寄りの ADL の維持と喜びを引き出します。(新規)

看護師６人体制の現況を活かし、介護業務サポートの継続と共に機能訓練に着手する。加算取得に向け、関係書類と専任職員の配置等準備を整えた上で、夏以降、本格的に開始予定。自分の事は自分でできる喜びを目指して。

【自分の事は自分でできるあたり前の喜びを得られる効果】

⑤ 行政・他の社福法人と共に将来設計を整えます。(追加)

人口減や介護報酬の低改定、物価高騰等の課題に対し、行政とやすらぎ会と共に知恵を出し合い、法人合併・事業統合に向け、本格的に着手に入る年。西和賀のこれからの福祉像と将来設計を組み立てたい。

【町全体の大きな課題として関係機関が協働で取組む効果】

あいさつの心得

光寿会の基本姿勢 …『サービスとは、挨拶そのものに尽きる』

◎挨拶の「挨」は、
様々ないきさつを投げ捨てて、わが胸を開くことである。
（相手の胸を開かせることではない！）

◎挨拶の「拶」は、
「あなたが居てくれることが私の幸せです……」と、
わが胸に相手を抱きしめることである。

3つの基本姿勢

① 上司・同僚の話は、身を向けて（ヘソを向けて）、耳を澄まして聴く。
お年寄りを敬い、ニーズを知る訓練の基本。

② 居室に入るときは、一瞬立ち止まって、
「彼は今何を求め、何に悩んでいるだろうか」と黙想してから入る。
心の中に余裕を持つ基本。〔他のお年寄りにも声掛けを忘れない事〕

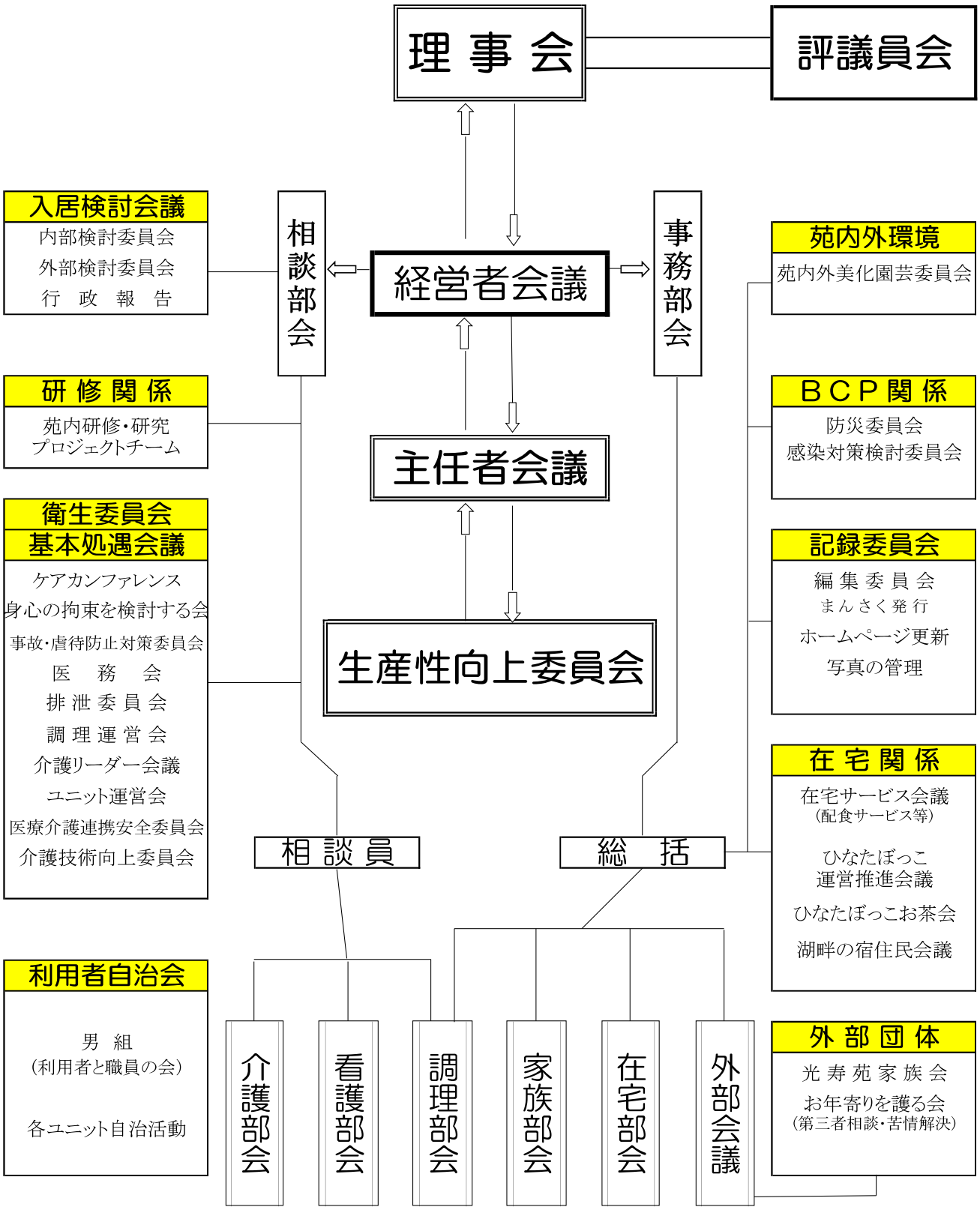
③ お年寄りとの会話は、ひざを折って、目の高さを同じにして話す。
お年寄りと、介護者が平等の立場で話し合うための基本。
特に、相手が興奮状態などのときの会話の基本。

★ 視線は適度に合わせる必要があります。私が全く視線を合わせないと、相手は「冷たさ・無視されている・無関心」を感じます。逆に、視界に入り込んで視線を合せ過ぎると「圧迫感」が生じます。適当に視線を合わせたり外したりすることが必要になってきます。

★ 要するに、24時間365日の認知症ではないですし、いつも興奮している訳でもありません。視界から外れて欲しい時だってあるものです。

⇒ そのような際の上手なコミュニケーション法としては、『縁側効果』（三好春樹氏）があります。横に座って、同じ景色（山、桜、お天気等々）を共有しながら、時折、視線を合せる。そして、共有している景色をきっかけとした言葉を発してみる。これ位が程よく、よい印象や気分が残りやすいのです。

★ 最後に、関わるすべての人をつなぐことのできるコミュニケーションの最大の表現力は、『笑顔』です。人の習慣は、一般的な人で、21日間同じことを信念もって続けていけば、その人のものに成るとされています。
心から笑顔で過ごせる習慣を心がけ、続けてみましょう。

(2) 会議・委員会体系図

別表15